

非常用取水栓の使い方

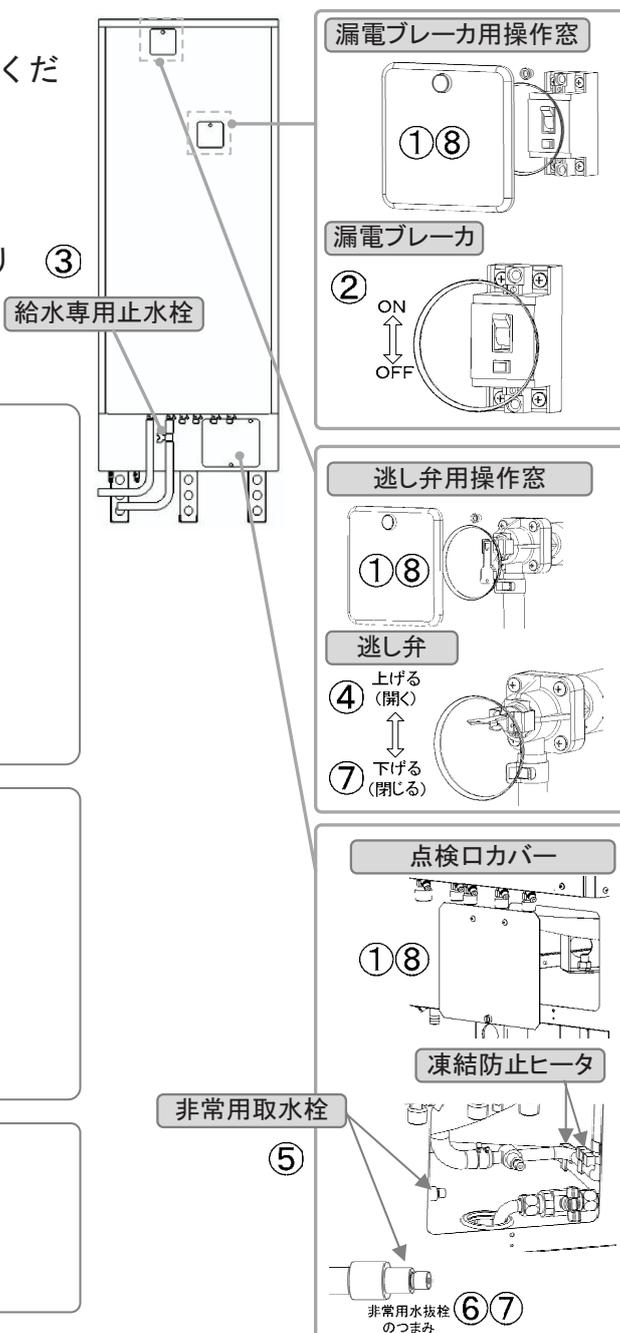
万が一の地震などの災害時は、貯湯タンクユニット内のお湯（水）を生活用水として利用できます。

- ① 貯湯タンクユニットの漏電ブレーカ用操作窓、逃し弁用操作窓、点検口カバーを取りはずします。
- ② 漏電ブレーカの電源レバーを「OFF」にします。
- ③ 給水専用止水栓を閉じます。
- ④ 逃し弁のレバーを上げます。
- ⑤ 点検口カバー内の水抜栓にホースが差し込まれていますので、非常用取水栓に差し替えてご使用ください。
- ⑥ 非常用取水栓を開き、容器に受けます。はじめの5リットル程度は雑用水としてお使用ください。
- ⑦ 取水が終わったら、非常用取水栓を閉じ、逃し弁のレバーを下げます。
- ⑧ 操作窓（2ヶ所）、点検口カバーを元どおり取り付けます。

※準備するもの

- ・ 容器
(ポリタンク、バケツなど)

貯湯タンクユニット



警告

- 取水時はお湯に手を触れないでください。
- 貯湯タンクユニットの内部配管および凍結防止ヒータには手を触れないでください。やけどすることがあります。
- 漏電ブレーカを操作するときは、ぬれた手で行わないでください。感電することがあります。

注意

- そのまま飲用にしないでください。長期間のご使用により、貯湯タンクユニット内に水アカがたまったり、配管材料の劣化により、水質が変わることがあります。飲用される場合、一度沸騰させてください。

お願い

- 再びお使いになるときは「はじめてご使用になるとき」(▶▶14ページ)の手順の準備作業を行ってください。

停電時や断水・水道工事が行われるとき

停電したとき

本機は、約4時間以内の停電であればお客様の設定した「時刻」、「運転モード」などの設定は記憶しています。ただし、これ以上の長時間停電が続いた場合、下記設定がお買い上げ時の設定に戻りますので、設定しなおしてください。

停電が10分以上続いた場合

ふろ自動運転が停止します。

- 停電が10分以上続いた場合、ふろ自動運転は停止します。浴槽の湯が冷めてしまった場合は、浴槽内の湯を全部排水してから、ふろ自動を行ってください。停電終了後、再度ふろ自動運転を行ってください。
- 10分以内の停電であれば、停電終了後ふろ自動運転を再開します。ただし、設定した湯量・湯温にならない場合があります

停電が4時間以上続いた場合

時刻がリセットされます。（「--:--」点滅表示）

- 停電終了後、時刻を設定してください。

お湯の沸き上げが停止します。

- 時刻がリセットされると、お湯の沸き上げは停止します。停電終了後、時刻を正確に設定してください。
- 短時間の停電であれば、停電終了後お湯の沸き上げを開始します。ただし、長時間停電していた場合、設定した湯量までお湯が沸き上げられないことがあります。

湯はり予約が解除されます。

- 停電終了後、時刻を設定し、再度予約をしてください。

各設定がリセットされます。

- 停電が4時間以上続いた場合、各設定がお買い上げ時の設定に戻ります。ご使用の状態に合わせて再度設定してください。再設定が必要な機能は、右表を参照してください。

再設定が必要な機能	参照ページ
日時合わせ	16ページ
電力サービスモード	17ページ
運転モード	18ページ
給湯温度・優先リモコン	26・27ページ
湯はり量	32ページ
湯はり温度	32ページ
ふろ自動運転継続時間	33ページ
湯はり予約	34ページ
リモコンの表示	42ページ
リモコンの音量	46ページ

断水・水道工事が行われるとき

断水したときや、近くで水道工事が行われるときは、給水専用止水栓を閉じてください。工事が終了したら、水道用の水栓を開き、水の汚れがなくなったのを確認してから、給水専用止水栓を開いてください。

- 濁った水が貯湯タンクユニット内のストレーナを目詰まりさせ、湯量が減少したり、お湯が濁る原因になります。
- 断水しているときは、お湯を使用しないでください。エラーを表示する場合があります。